

小寺聡著「もういちど読む山川倫理」山川出版社 2011年4月20日刊を読む

孟子：性善説

1. 人間の善い心の可能性を伸ばすためには、どのようにすればよいのだろうか。孔子の教えを受け継いだ孟子(前 372 頃～前 289 頃)は、人は誰でも生まれつき、善へと向かう心を持っていると考えた(性善説)。
2. たとえば、幼児が井戸に落ちそうになっているのを見れば、誰でも思わず助けようと走り出すだろう。それは親にとりいるためでも、近所の評判を気にするからでもなく、心のうちから自然にほとぼり出る行為である。孟子はその心を、他者の不幸や悲しみを見過ごすことのできない、忍びざるの心であると考えた。
3. このように、人間には生まれつき善い心の芽生えがそなわっており、孟子はこれを^{したん}四端と呼んだ。
 - ①それは「他人の不幸を見過ごすことのできない惻隱の心(忍びざるの心)」
 - ②「自分の悪い行いを恥じる^{しゅうお}羞惡の心」
 - ③「たがいに譲りあう^{じじょう}辞讓の心」
 - ④「善悪を見分ける^{ぜひ}是非の心」の四つである。
4. (1) 端という字のつくりは、大地に根を張った根生植物が芽を出している姿をあらわしたものとされ、ものごとの始まり、芽生えを意味する。
(2) 四端の心を育てることによって
 - ①仁(思いやり)
 - ②義(正義)
 - ③礼(礼儀)
 - ④智(道徳的な判断力)の「^{しとく}四徳」を実現し、道徳的な善い人格を完成させることができる。
5. (1) 孟子はとくに仁義の徳を重んじ、「仁は人の心なり、義は人の^{みち}路なり」と語っている。
(2) ①仁は人を愛する心情であり、
②義はそれを正しい行為としてあらわしたもので、つまり正しい行動の筋道、道理である。
(3) ①人は心に仁をいだきながら、社会の具体的な場面において、その時どきの状況に応じて、
②正しい道理である義に従い、仁を実現していかななくてはならない。

6. (1)しかし、人は義の道はずれ、仁の心を失ってもさがそうともしない。
(2)孟子は、「自分の心が迷子になっているのに、さがそうとはしない(放心あるも、求むることを知らず)」と歎いている。
(3)おのれの心にそなわる善の芽生えを育て、伸ばし、心を養うこと(養心)が必要なのである。
7. 放心を求める
(1)「人を思いやりいたわる心(仁)こそ人のもつべき心であり、人として実践すべき倫理的な義務(義)こそ人のふむべき道である。
(仁は人の心なり、義は人の路なり)
(2)しかるに、人はその道を捨ててしたがわず、その心を放って求めることを知らない。まことに哀れなことである。
(3)だれでも自分の^{にわとり}鶏や犬がみあたらなくなれば探す。
(4)しかし自分の人間らしい良い心が放たれて迷子になっても、求めることを知らない《放心あるも、求むることを知らず》
(5)学問の道はほかでもない、その見失われた良心を求めることである。」(『孟子』告子篇上)
8. (1)孟子は、おのれの心を養って、徳を身につけ、人間として心身ともに充実した、力強い気分を「^{こうぜん}浩然の^き気」と呼んだ。
(2)それは「自己をかえりみて正義にかなっているならば、千万人が立ちほだかっても私は前進する(みずからを反りみて^{なお}縮ければ、千万人といえども我^ゆ往かん)」という、道徳的な勇気である。
(3)そして、どのような困難な場面にも屈せず、仁義を貫こうとする道徳的意志をもった理想的な人物を「^{だいじょうぶ}大丈夫」と呼び、人生の目標とした。
9. (1)孟子は、社会をつくる基本的な人間関係を「^{ごりん}五倫」と呼んだ。
①親子の親(親愛の情)
②君臣の義(正しい道理)
③夫婦の別(男女のけじめ)
④兄弟の序(年齢の順序)
⑤友人の信(信頼)である。
(2)孟子は「五倫を守らなければ、鳥や獣と同じだ」と述べ、人間関係を尊重して生きることが、人の道であると説いている。
10. 五倫の分け方には、当時の身分を重んじる封建社会の影響はあるが、人間関係の尊重に道徳の基本を求める孟子の考えは儒教の根本であり、現代にも通じるものがある。
11. (1)さらに、孟子は権力によって民衆を支配する政治を「^{はどう}霸道」と呼んで否定し、
(2)仁義の徳によって民衆の幸福をはかる王道を、政治の理想とした。

(3)そして、

①横暴な王が民衆を苦しめれば、天の命が革まり(革命)

②民衆の支持を得た者が新しい王となって暴君を追放・征伐し(放伐)

③新しい国家をつくって王朝の名がかわる(易姓)という、「易姓革命」の思想を説いた。

(4)民衆の支持を得た新しい指導者が横暴な王を討ち、新しい王朝を打ち立てることは、天意にかなうことであると正当化する易姓革命の思想は、孟子の独特の政治思想である。

P45 ~ 47

人物 孟子

孟子は、古代中国の戦国時代の思想家である。孔子の死後 100 年ほどして、魯の隣の鄒という小国に生まれた。母親から熱心に道徳的な教育を受け、20 歳の頃、魯にいて孔子の孫の子思の門人となり、儒教を学んだ。戦乱で民衆が苦しむ中で、諸国をめぐって仁義の徳の政治(王道)を説いたが、受け入れられなかった。晩年は、故郷で弟子の教育と著述につとめた。主著に『孟子』がある。

[コメント]

「四書」と呼ばれる中国の古典「論語」「孟子」「大学」「中庸」のうち、孔子の教えを弟子たちが 499 章にまとめた「論語」はよく読むが、「孟子」「大学」「中庸」を読む人は、現代では少ない。

明治維新の担い手であった幕末の志士たちは、立場は異なれども、「論語」だけでなく、「孟子」「大学」「中庸」を「五経」と呼ばれる中国の古典とともに学びに学んだ。幼い頃から親しみ、ほとんどを諳んじていた人も多いようだ。

特に、孟子の覇道を否定した仁(思いやり)と義(正義)、仁義の徳によって民衆の幸福をはかる王道、易姓革命は、倒幕と明治維新の原動力となった。大いに学びたい。

— 2015 年 10 月 20 日 林 明夫記 —